

Brighten
your
future



京都府立東宇治高等学校
創立50周年記念誌

Brighten your

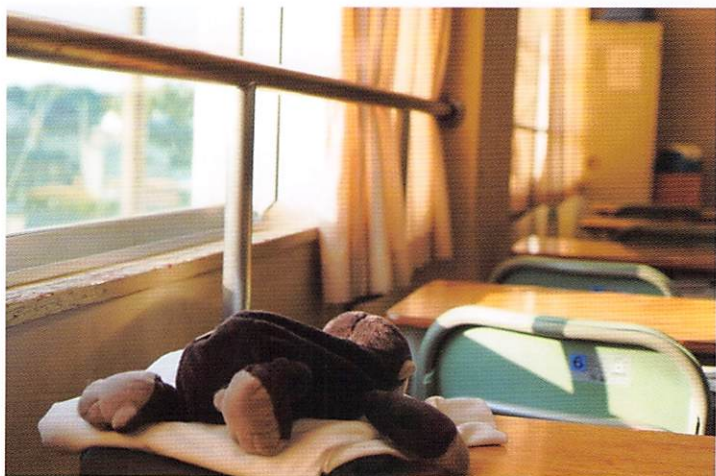
future

Contents

目次	1
校舎全景	2
校内点描	6
航空写真	10
校章・校歌	14
第1章 発刊に寄せて	
挨拶 校長・実行委員長	16
祝辞 京都府知事・京都府教育委員会教育長・ 同窓会長・PTA 会長	18
第2章 東宇治高校のあゆみ	
卒業生からのメッセージ (32期生・34期生・40期生・45期生)	22
購買からのメッセージ	26
東宇治高等学校50年の歴史	27
過去の写真でふりかえる東宇治高校	28
第3章 東宇治高校の今	
現在の東宇治高校	36
東宇治高校の1日	42
第4章 創立50周年座談会	
在校生と卒業生教職員の座談会	44
編集後記	52











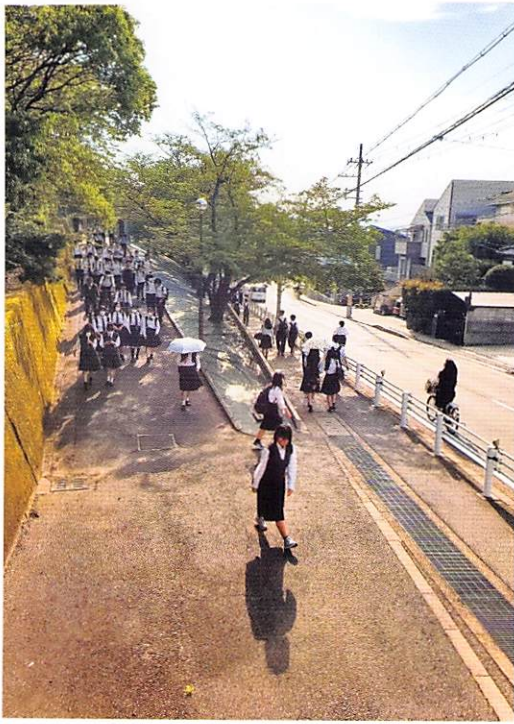
廊下 (現在)



渡り廊下 (過去)



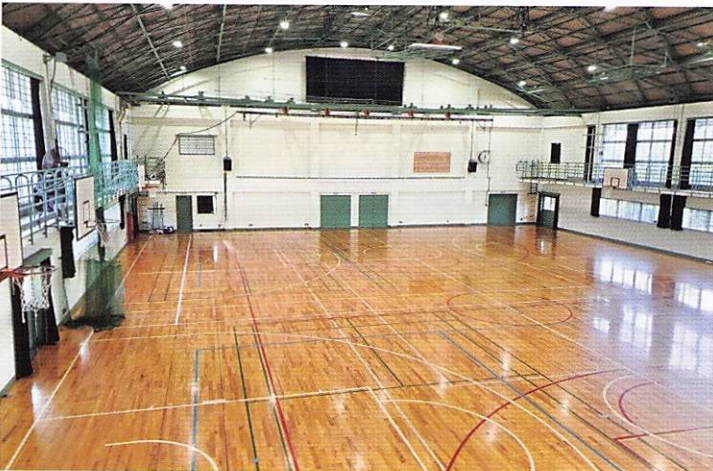
渡り廊下 (現在)



通学路 (現在)



校舎 (過去)



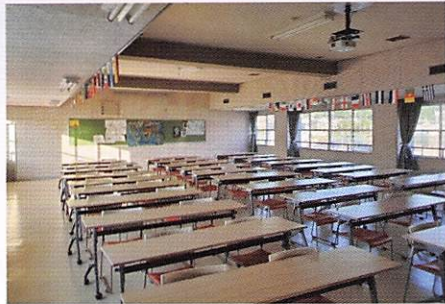
体育館 (現在)



校舎 (現在)



グローバルルーム(過去)



グローバルルーム(現在)



廊下(過去)



図書館(過去)



通学路(過去)



図書館(現在)



図書館(現在)



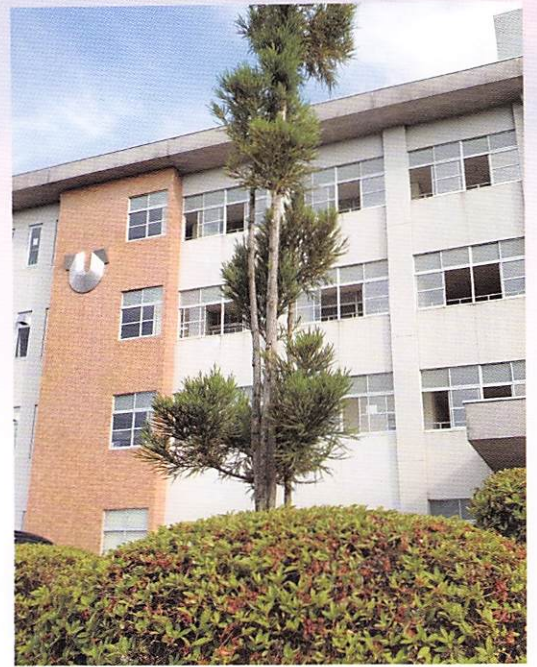
教室(現在)



体育館(過去)



玄関前 (現在)



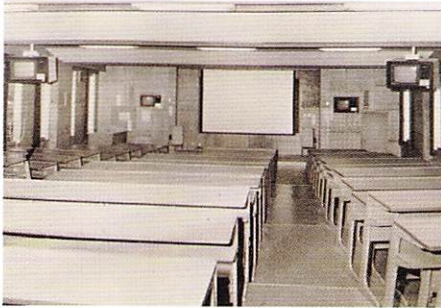
玄関前 (現在)



玄関前 (過去)



渡り廊下 (過去)



視聴覚教室 (過去)



視聴覚教室 (現在)



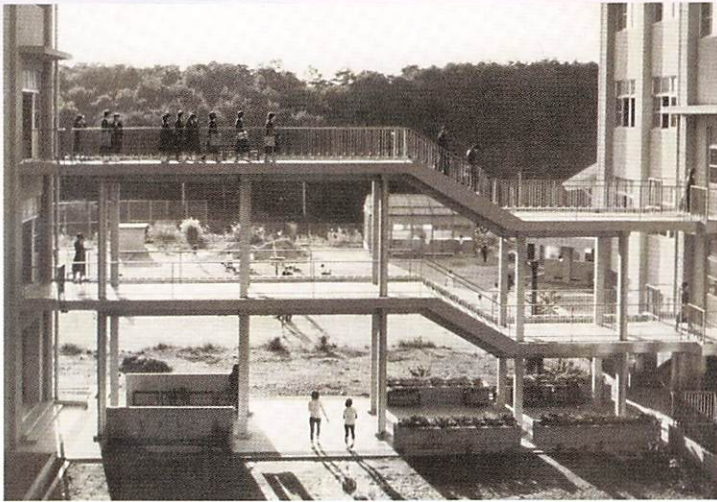
駐輪場 (過去)



駐輪場 (現在)

昭和49年





渡り廊下(過去)



渡り廊下(現在)



渡り廊下(現在)



階段(過去)



階段(現在)



教室(現在)



渡り廊下(過去)



渡り廊下(現在)

昭和58年



平成7年



平成17年

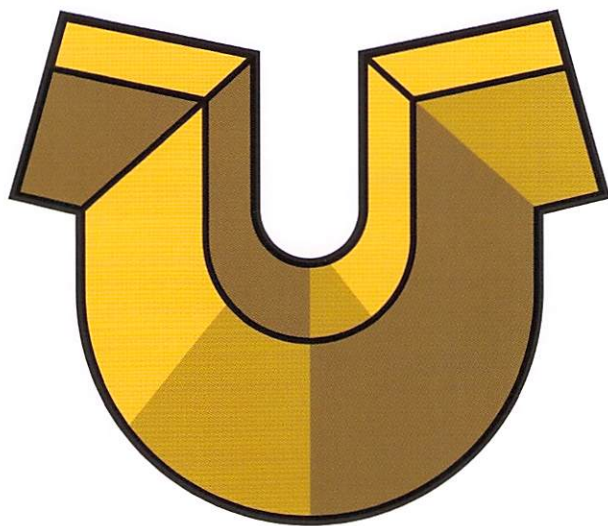


平成26年



令和2年





校章

1. 東宇治の東（ひがし）の「ひ」と、宇治（UJI）の「U」とを併せて表した。
2. 直線と折線は知的きびしさを示し、曲線のなす弧はどっしりとしたたくましい意志と体力を示している。
3. 直線と曲線の調和は、豊かな人間性を表現した。
4. 翼を示すことにより、若人の未来にはばたく希望を表した。
5. 緑なす平尾山の丘陵地にある学園の地形を表している。

校歌

中原昭哉 作曲

深井隆三 作詞

朝日輝く 緑の丘は

夕日映える 宇治の流れは

古き伝え 織りなして

常に人の世 うつしゆく

美しき白亜の 学舎に

学舎に 希望の鐘響き

若人は 理想に燃えて

若人は 真理を求め

豊かなる日々 重ねつつ

遙かなる道 拓きつつ

たくましく 未来に生きん

望みある 未来を築かん

ああ 東宇治 わが母校

ああ 東宇治 わが母校

創立50周年式典実行委員会委員長を仰せつかりました5期生の橋本と申します。実行委員会を代表いたしまして、ご挨拶を申し上げます。



京都府立東宇治高等学校が、創立50周年を迎えました。1万数千人を数えることとなった卒業生が、各界で活躍をしています。これもひとえに、厳しくも温かくご指導いただいた恩師の皆様、東宇治校生を温かく見守ってくださった地域の皆様のお陰と、心から感謝を申し上げます。

この50年の間に学校を取り巻く環境は大きく変化しました。周辺の茶畑や丘陵のほとんどが宅地となり、学校近くにはバス停も設置されて、久しぶりに母校を訪ねられた卒業生の皆様は、大変驚かれることと存じます。入試方法や校区も大きく変化し、山城地域全域から通学可能となり、英語系のクラスは京都市内からも通学可能となっています。

文理・英語探究コースが設置され、文理コースは2年生からは発展コースや文系コースに分かれて個々の進路の実現を目指しています。また、国内への研修旅行を通じて、文化や社会に対する視野を広げる学習活動をおこなっています。

英語探究コースでは、1日の授業のうち4分の1が英語という、英語に特化した環境で学習が行われています。また、オーストラリアへの研修旅行ではホームステイしながら現地校で授業を受けるなど生きた英語を通じて異文化への理解を深めています。

そのような中でも東宇治校生の勤勉な姿は今も変わりなく、落ち着いた学習環境の中で授業や部活等に一生懸命に取り組んでいます。私事ですが、PTA 会長や学校評議員として東宇治高校に関わってきた中で、彼らの頑張りを大変誇りに思っています。

「公立高校が地域にあることが、その地域の文化そのものです。」

このような言葉を聞いたことがあります。これからも東宇治高校が地域の皆様や校区の皆様にとって、安心して我が子を託すことができる学校で在り続けることを切に望みます。今回の創立50周年記念を一つの区切りとして、60年、70年そして100周年に向かって益々発展していく東宇治高校を楽しみにしています。

最後になりましたが、50周年記念に際してご協力をいただいた実行委員の皆様、同窓会の皆様、そして学校関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

挨拶

校長
野村
康隆

今から50年前、宇治市内には府立高校が1校しかありませんでした。そこで、地域の方々の熱い願いが叶い、宇治市で2校目の府立高校として、本校は昭和49年4月に開校しました。1期生となる最初の入学生は、入学に先立つ登校日に、自分たちの机・椅子を教室に運び入れました。当



時の学校の周辺は住宅も少なく、茶畑が広がる「緑の丘」でした。自分たちの学校を自分たちの手で美しくしていこうという思いで、生徒・教職員全員でツツジの苗を植えたそうです。入学式は、体育館が未完成であったため、近隣の木幡小学校で挙行されました。初代校長の深井隆三先生が、普通科315名（7クラス）の入学を許可され、東宇治高校の歴史がスタートしました。

昭和55年には、硬式野球部が創部6年目にして見事京都府大会で優勝し、夏の甲子園大会に出場を果たしました。1回戦で金沢高校に勝利し、甲子園球場に東宇治高校の校歌が流れたときの感動はどれほどのものだったのでしょうか。

このような開校当初を経て、東宇治高校は数多くの生徒たちが学び、成長し、社会に羽ばたく場としての役割を果たし、教育の充実と人格の形成に全力を注ぎ、多くの優れた人材を輩出してきました。教職員は情熱と献身を持って教育に取り組み、生徒たちの可能性を引き出し、夢に向かって進む力を育んできました。

昨今では、グローバル化や情報化の急速な進展などを背景に、社会構造の大きな変動期を迎え、人工知能等の先端技術が高度化していく中、緊迫している国際情勢や新型コロナウイルス感染症のパンデミック、自然災害の脅威など、改めて命の大切さを痛感しています。このような予測困難な時代に子どもたちが幸せに生きていくためには、学び得た知識・技能を生かし、自らの考えを発信するだけでなく多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造できる力の育成が必要であると考えます。

そこで本校では、このような力を育成するため、教育目標として「みらいを明るくできる人（自主性を基盤に、社会と関わり、課題を解決していこうとする人）」の育成を掲げ、生徒に、①挑戦する姿勢、②周囲と関わる姿勢、③努力し続ける姿勢を身に付けさせる教育活動を実践しています。

結びに当たり、京都府立東宇治高等学校創立50周年に際し、関係者各位の平素の御支援・御協力に心から感謝申し上げます。

私たちは東宇治高校の歴史を誇りに思い、未来への希望を抱くとともに、より一層の飛躍を目指して邁進してまいります。

祝
辞

京都府立東宇治高等学校が創立50周年を祝う特別な日を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

本校は、昭和49年4月に、目覚ましく発展する山城地域の方々の声に応えるため、豊かな緑に囲まれた環境のもと開校されました。以来、「心身ともに健康にして、自発性・創造性・実践力を身につけた、文化的で平和な国家及び社会の形成者を育てる」を教育方針として、優れた教育活動を実践され、各界に優秀な人材を多数輩出してこられました。



これもひとえに歴代の校長先生をはじめ、教職員の皆様の御指導と、同窓会やPTA、さらには地域の皆様の御支援と御尽力の賜であると、深く敬意を表する次第です。

現在、本校では、国際人としての視野を広げるための異文化理解教育に力を入れております。海外研修旅行では、現地の学校との交流を通じて互いの文化を発信し、国際社会での見聞を広げる機会としています。また、英語によるディベートや大学と連携した国際理解セミナー等のアカデミックな学習を通じて、異文化に対する理解を深めるとともに、「生きた英語」による実践的なコミュニケーション能力の育成にも取り組んでいます。

また、京都府教育委員会では、平成28年度に本校を「グローバルネットワーク京都校」に指定し、SDGsを踏まえた国際理解や地域連携をテーマとした探究活動に取り組んでいます。これらの活動の中で、プレゼンテーション能力や論文作成能力の育成にも取り組んでおり、毎年、開催している他校との交流発表会では、素晴らしい発表をするなど、その成果を遺憾なく発揮しているところです。

本校で実践されているこれらの取組は、グローバル化や情報化が進展するこれからの社会を担っていく人材育成の礎を築くものだと確信しております。京都府教育委員会としまして「第2期京都府教育振興プラン」に3つのはぐくみたい力「主体的に学び考える力」、「多様な人とつながる力」、「新たな価値を生み出す力」を掲げ、次代を担う生徒の教育に邁進するとともに、今後も東宇治高校の教育活動の一層の充実に努めてまいります。

結びにあたり、本校が創立50周年を契機として、さらに魅力あふれる特色ある学校づくりに取り組まれ、ますます充実、発展されますことを心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

京都府教育委員会 教育長
前川 明範

祝
辞

この度、京都府立東宇治高等学校が創立50周年という記念すべき年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

東宇治高校は、「山城地域の発展に資する学校を」という地元からの熱心な願いに応え、昭和49年に開校されました。以来長年にわたって優れた教育活動を展開され、京都府内はもとより、全国各地で活躍する多くの卒業生を輩出してこられました。これもひとえに、歴代の校長先生をはじめ、学校関係者の皆様の熱心な御指導の賜であると深く敬意を表しますとともに、長年にわたり学校運営に多大な御理解と御協力をいただいております、PTA並びに同窓会や地域の皆様に心から感謝申し上げます。



さて、現在、私たちを取り巻く社会状況は、新型コロナウイルス感染症や国際情勢の大きな変化等により、目まぐるしく変化しています。このような中、東宇治高校におかれましては、「みらいを明るくできる人:自主性を基盤に、社会と関わり、課題を解決していこうとする人」の育成を教育目標に、地域社会における身近な課題や国際社会における地球規模の課題等について調査し、その解決方法を探究する活動を行っておられます。さらに、多様化する国際社会で活躍できる力を身に付けるため、大学教授による国際理解についての講義や海外研修旅行での現地校との交流などに取り組み、優れたグローバル人材の育成を目指した異文化理解教育を実践されています。

これらの取組を通して、生徒が将来の夢を大きく育み、その実現に向けて、卒業後もそれぞれの分野で課題を発見、解決しながら、活躍されることを確信しております。今後も東宇治高校が、地域に根ざした取組に一層努められるとともに、地域社会さらには世界で活躍する人材の育成に寄与されることを大いに期待しております。

京都府としましても、子どもたちが安心して豊かに暮らし、将来に向かって夢を抱くことができるよう、「子育て環境日本一」を目標として掲げ、「あたたかい京都づくり」の推進に一層努めてまいります。

記念すべき日を迎えられた東宇治高校が、輝かしい歴史とこれまで育まれた校風を活かし、次代の担い手の育成に一層貢献されるとともに、関係の皆様の御健勝・御活躍をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝
辞

東宇治高等学校創立50周年おめでとうございます。

私が1期生として母校の門をくぐってから早半世紀近く経とうとしています。光陰矢の如し、と言いますが、50年の月日感慨深く感じます。創立期の母校は今こそ周辺に多くの住宅が建っていますが、茶畑に囲まれた山間の高校でした。私の実家は母校から徒歩で10分の距離にあり通学は便利でしたが、多くの友人は最寄りの駅から山道を登ってくるという苦行を強いられていました。(これは今も変わらないかもしれません)



さて入学当時は体育館はなく、入学式は近くの小学校の体育館を借りて行われましたし、体育の時間はほぼグラウンド整備に費やされていましたが、何せ先輩がいない1期生なので自由でかつ自分たちが部活や生徒会活動等のそれこそ新しい高校を創設するという黎明期の熱量に覆われていたことを懐かしく思います。

その後1期生であるため「初代同窓会長」を拝命しました。しかしこうして半世紀近く同窓会長を務めるとは思いもよらないこととなりました。同窓会の活動としては10周年の記念誌や名簿の発行をし、記念パーティーを今は無き「醍醐プラザホテル」で行いました。そして昭和55年に母校が夏の甲子園野球大会に出場した際、急遽横断幕を準備し、バスで応援に行ったことも懐かしい思い出の一つです。その後は会としての大きな活動もなくこうして50周年を迎えたことは申し訳なく思っております。

しかし私個人的には50年近く継続している活動があります。それは卒業式と同時期に行われる「同窓会入会式」の挨拶です。最近では自分の仕事上平日の入会式には出席できず、副会長の辻田さんに代読してもらっていますが、それでも毎年作文しております。文章は卒業生の琴線に触れれば幸いと思い、いろいろな偉人の言葉を借りたりしていますが、その中で私が一番良くてきたと思う挨拶文の一部を紹介します。それは2012年2月28日の挨拶文です。その前年にあの東日本大震災が起こり、日本全体が失意から復興にむけて一步を踏み出した時期でした。そのとき開催された春の選抜高校野球大会の選手宣誓「生かされた命に感謝」を使わせてもらった挨拶文です。

「(前略)犠牲者の中には皆さんと同じ前途を嘱望された若者が多く含まれています。きっと悔しい思いをしているでしょう。今日本は未曾有の危機といえるかもしれません。しかし残された皆さんが、彼らの分まで社会の一員としての義務と責任を成し遂げていかなければ、夢半ばにして震災で散った若者たちに申し訳ないではありませんか。今後「生かされている命に感謝され」あらゆる分野での不屈の気概を持って進まれていくことを祈念してはなむけの言葉とさせていただきます。」

現在新型コロナウイルス感染禍、現高校生は生きにくい高校生活を過ごしていると思います。あの震災よりもある意味不屈の気概が必要な時代かもしれません。ただやはり「青春ってすごく密」なのに辛抱しながら生きていく母校の後輩たちに何かできる同窓会でありたいと開校50周年を機に思い直しております。

同窓会長

山田
衆

祝
辞

東宇治高等学校が創立五十周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。

私の高校生活（旧西宇治高等学校）の思い出を紐解きますと、四十年前になります。高校受験は、今みたいに山城ブロックの10校の中から選ぶのではなく、家から近い高校だけしか選ぶことが出来ませんでした。更に、前期・中期・後期と、何度も受験するのではなく、1回の受験しかできませんでした。倍率は1.01ぐらいでほとんどの受験生が受かる状況でした。



当時のクラス数は、各学年11クラスあり、ほとんどの生徒が、学校をやめたり、留年することなく、卒業していきました。その代わりに、大学は現役で受験に受かる生徒が少なく、私も含めてですが、1年間予備校通いをしている仲間が多かったです。現在においては、各学年7クラス（現東宇治高等学校）ですが、これからさらに子供の少子化が進み、各学年のクラス数も減っていくように思われます。

クラブ活動は盛んで、ほとんどの生徒が、体育会系・文化会系に入っており、帰宅する生徒は、ほとんどいませんでした。文化祭・体育祭は、盛大に盛り上がり楽しい記憶が残っております。文化祭の思い出の一つとして、高校1年生の時、演劇に出演しており、台詞を覚えるのが大変だったと記憶しております。高校生活の思い出に残る1ページです。

京都府内の高等学校が、子どもの少子化で統廃合が進められております。自分が通っていた高等学校がなくなるのは、寂しい気持ちになりますが、高等学校の思い出は、私と同じように皆さんの心の中に残ります。今の情勢では、なかなか楽しいことがないかもしれませんが、少しでも心に残る高校生活を過ごしてほしいものです。

これまでの地域活動、後援会活動及びPTA・教育後援会活動にご理解、ご協力頂き、誠にありがとうございました。重ねて心よりお礼申し上げます。これから先の活動においてもどうぞよろしくお願い致します。更に、歴代の教職員の皆様、東宇治高等学校を支えていただきありがとうございます。これからも東宇治高等学校をどうぞよろしくお願い致します。

結びにあたり、東宇治高等学校の益々のご発展と東宇治高等学校関係者の皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

P
T
A
会
長

池
本
泰



北村 泰之

32期生

knoot 一級建築士事務所主催
アアルト大学客員教授

京都府立東宇治高等学校・創立50周年
おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私は平成20年(2008年)のⅡ類文理系の卒業生で、在学中は男子バスケットボール部に所属していました。思い返すと部活動ばかりしていた3年間、級友や先輩・後輩と本当にかけがえのない時間を過ごしました。

現在、私は建築設計事務所を開設し、住宅や店舗、公共施設などの設計をしています。高校を卒業し、大学で建築を学び、建築で人を幸せにすることを目標にこれまで走ってきました。この文章を書いている今は、アアルト大学の客員研究員としてフィンランドに滞在しています。こうして私が海外でチャレ

ンジしているということも、高校の研修旅行でタイに行った経験が世界を広げてくれたのだと思います。

しかし、高校当時の私からは今の自分の姿は全く想像できないと思います。恥ずかしいことに苦手であった英語は未だに勉強しています。もし学生の自分にアドバイスができるなら、もっと勉強を楽しむこと、諦めず続けることを伝えたいです。高校卒業からおよそ15年が経ち、あの頃の先生方と同じ年齢になりました。社会に出て、多くの人の協力が必要なことや、全ての経験を強みにすることの大切さなど、様々なことを学びました。そして、これまでの経験を糧に、目標に向かって日々試行錯誤を重ねています。東宇治高等学校の卒業生として、夢や希望を与えることができるよう今後も精進していきたいと思っています。



東宇治高校創立50周年に寄せて



谷村 翔太

40期生

京都府立
田辺高等学校
教員

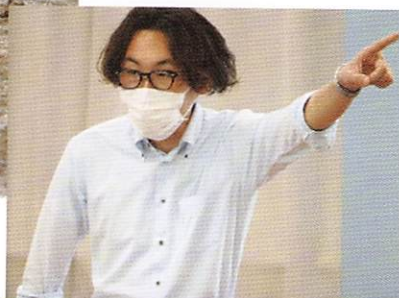
この度は、京都府立東宇治高等学校の創立50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。私は40期生ですのでちょうど10年前に入学したことになります。東宇治高校での3年間で、たくさんの友達や先生方と出会い、本当に人生が豊かになったと感じています。

私はサッカー部に所属し、東宇治高校での3年間は部活に捧げました。そのときの仲間と楽しいこと、つらいことを一緒に経験しました。彼らと出会って10年経ちますが、今でも毎週のように集まって当時の話で盛り上がっています。人との出会いの大切さを、高校生活を通して学ぶことができました。本当にかげがえのない友達と出会えました。

現在私は、高校で英語の教員をしています。教職に就こうと考えるようになったのには、高校の担任の先生との出会いが大きく影響しています。何も考えずに生きていた当時の私に、担任の先生は物事の見方や考え方を厳しく教えてくださり、私は徐々に自分の生き方を見つめ直すようになりました。当時は理解できなかった話でも、今となって意味がわかることもあり、高校を卒業し社会人になった今でもまだ、先生に教えてもらっているような感覚です。高校時代は担任の先生を筆頭に、多くの先生に支えられていました。今は私自身が子どもたちを支える立場です。高校生生の時に先生方にさせていただいた以上のことを、今の生徒に還元したいと日々考えています。先生方に教えてもらった「考える力」というものが今の仕事に活きていると感じています。

この仕事をしていて、高校の3年間の大切さというものを深く感じています。その3年間を充実させるかどうかは自分次第だと思います。だるいと思えばつまらない3年間になるし、楽しいものだと思えば楽しい、意味のある高校生活を送れます。自分の心持ちひとつで高校生活は変わるのです。勉強さえもおもしろいと思えば取り組むと、自然と力が身につくのです。せつかくの3年間、楽しく意味のあるものだと思いつつ過ごしてほしい、と思っています。

末筆ながら、京都府立東宇治高校のより一層のご発展と皆様のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



「創立50周年」祝辞

岡本 奈津実

34期生

レグセル株式会社
研究員

京都府立東宇治高等学校が、記念すべき創立50周年を迎えられましたこと、心からお祝いとお喜び申し上げます。

東宇治高校を2010年に卒業し、理系専攻で大学へ進学しました。現在は世界的な免疫学者である坂口志文先生が責任者を務められている企業にて、研究員として働いております。

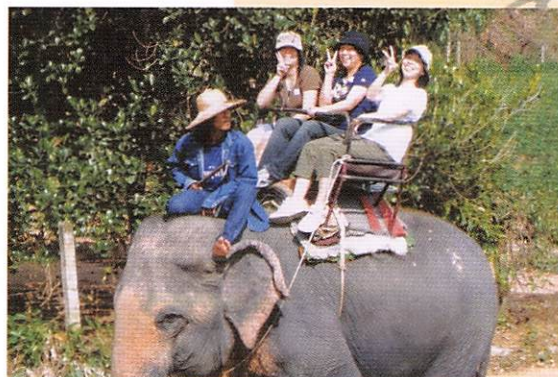
高校入学時、授業についていけるか不安なくらい理数系分野が苦手でした。しかし、担当して下さった先生の授業が楽しく、いつの間にかそれら教科が苦手ではなくなっていました。苦手意識がなくなったこと、それによって将来の選択肢が増えたこと、東宇治高校で出会えた先生方に今でも感謝しております。

また私は1.5類で入学し、クラス替えがなく同じ学友と3年間過ごしました。文化祭や体育祭、修学旅行ではたくさん笑って、たくさんぶつかり合いました。クラス替えがない分、ぶつかり合うときは全力で、それがクラスの結束力や友情へつながったと思っています。卒業して10年以上経った今でも、

クラスの様子やメンバーの顔を思い出すことができるほど、かけがえのない3年間になりました。

この度は創立50周年の記念誌へ寄稿する機会をいただき、誠にありがとうございます。

東宇治高等学校のますますの飛躍と発展、関係者の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



購買から見た東宇治高校



岩崎佳江

創立50周年、おめでとうございます。私の地元ですので東宇治高校が創建された時のことを覚えています。そして野球部さんが夏の全国高校野球選手権大会に初出場された時に地元が大いに盛り上がったことも覚えています。そんなご近所の高校として見ていた東宇治高校の購買部で仕事をしないかというお誘いがあり、条件も何も聞かずに「行きます」と即答しました。そして、初めて出勤した日、桜が満開で「こんな素敵な学校で仕事ができるの嬉しいな」と思いました。そして、今日に至っています。

購買部は生徒さんの昼食の補助的な役割をしていると聞いています。毎日大賑わいです。限られた時間での販売ですので買う人

も売る人も必死です。順番に聞いていくので「ちょっと待ってね」と言うと、皆さん私が「何しよか」と聞くまで待ってくれます。とてもやりやすい生徒さんです。

また、いつも私が感動させられることがあります。それは、コロナ禍にあって学校行事や部活動が制限されて従来の学校生活がおくれないという状況の時、先生方はいろいろ工夫をし、できる方法で行事を進めておられたこと。そして、できることを健気に精一杯楽しそうに活動する生徒の皆さんの姿です。コロナ以前を知っている私は生徒さん達が可哀想で胸が塞がる思いでした。今は緩和されていますが、皆さんのご健康を祈るばかりです。

私から見える東宇治高校は、実直で穏やか、校内は綺麗に整備されています。私はそんな東宇治高校が大好きです。いつまでも購買で仕事がしたいなと思っています。



東宇治高校での思い出

谷内 杏樹

45期生

関西大学在学



東宇治高校で過ごした3年間は宝物です。その中で特に心に残っている出来事はダンス同好会の設立です。今は部活となっていますが私が一期生として設立した時は同好会でした。高2の頃に友達が「ダンス部作らん?」と声をかけてくれたことがきっかけでした。その言葉に胸が踊り「ええやん!」とひとつ返事で返したことを今でも鮮明に覚えています。"ダンス同好会を設立し部活に昇格する為に日々活動をしている"と聞くと響きがよく、楽しそうだな~と思います。現実はずいぶん甘くありませんでした。笑

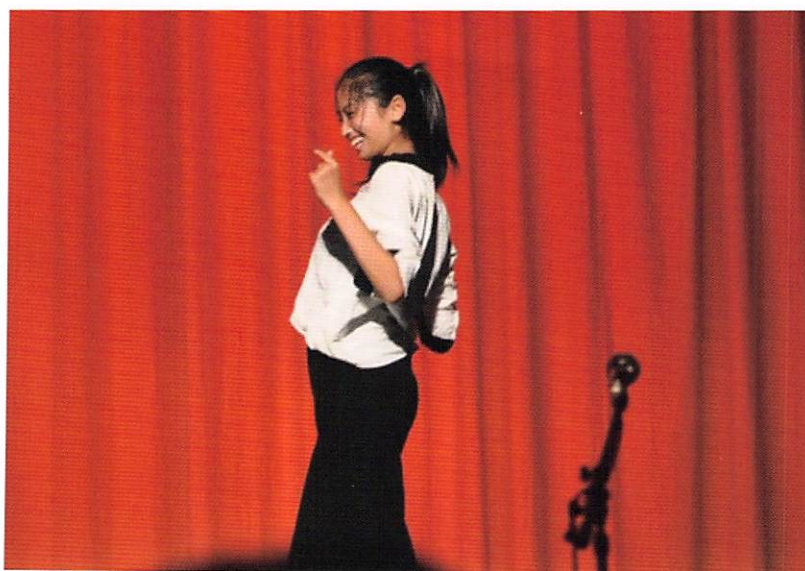
先生に掛け合い人を集め、校長先生に了承を得てやっと活動だ!と思っても練習場所が確保出来ず転々としたり…。

また、20人もの後輩が入部してくれ、より責任感が生まれました。それに加え高一から入っていたテニス部で副部長になり、曜日ごとにテニス部とダンス同好会を行き来する日々で忙しく充実した日が過ぎました。

一生懸命活動していくと次第に先生方にも認めてもらい小さなイベントにも出たり文化祭でのステージに立ったり、ステップアップしていき、遂に2021年の春に部活になったと後輩に聞いた時は本当に嬉しかったです!

ダンス同好会は大好きな仲間と作りあげた私の青春そのもので、そこから学んだものも多く、本当にかげがえのない、東宇治高校でしか得られない経験でした。

高校生の私へ。何事も挑戦し逆境にも立ち向かったその経験こそ今の私を作っているよ、ありがとう!



沿 革

年号	年	月	できごと
昭和	48.	10.	新設高校開設準備室設置
	49.	1.	京都府条例で「京都府立東宇治高等学校」と決定 全日制普通科を設置。初年度募集定員315名(7クラス)となる
		2.	深井隆三、初代校長として着任
		3.	第1期工事(一棟)完工
		4.	第1回入学式挙行
		7.	PTA発足
		9.	校歌制定
		10.	体育館完工、体育館開きを行う
	51.	3.	クラブ後援会結成
	54.	4.	横山正幸、二代校長として着任
	55.	4.	文部省より「体力づくり推進校」の指定を受ける
	56.	9.	京都府立高校開放講座「東宇治土曜講座」を開講
	57.	3.	格技場完工
	58.	4.	山崎好章、三代校長として着任
		10.	開校10周年記念式典挙行
	59.	12.	学習合宿実施
	60.	4.	新高校教育制度発足に伴い、普通科にI類・II類(人文系、理数系)を設置
	61.	4.	亘 教夫、四代校長として着任
	63.	3.	体育振興施設完工
平成	3.	4.	北村貞二、五代校長として着任
	5.	4.	村田伯義、六代校長として着任
	7.	4.	II類人文系を募集停止し、II類英語系を設置 I類(文系)に英語コースを設置 教育後援会結成(クラブ後援会改称)
	7.	5.	文部省より「生徒指導研究推進校」の指定を受ける
	8.	3.	全天候走路整備
		4.	曾根 勝、七代校長として着任 II類理数系を募集停止し、II類文理系を設置
	10.	9.	開校25周年記念式典挙行
	13.	4.	木村滋世、八代校長として着任
	14.	4.	土曜日子ども活動支援事業(アカデミックサタデー)開始
	14.	7.	国際交流プログラム開始
	17.	4.	「高等学校きらめく魅力推進事業」の指定を受ける
	18.	4.	「学力向上フロンティア校」の指定を受ける
	19.	4.	竹田保雄、九代校長として着任
	21.	4.	松本一寛、十代校長として着任
	22.	4.	橋本吉弘、十一代校長として着任
	23.	4.	山城通学圏における類・類型制度の解消により、 普通科に英語探究コース・文理探究コース・文理総合コースを設置
	24.	4.	千葉 均、十二代校長として着任 子どもの読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受ける 文部科学省・京都府教育委員会より 「京都府グローバルコミュニケーション校」の指定を受ける
	25.	4.	教育課程特例校(土曜授業の実施)の指定を受ける
	26.	4.	普通科文理探究コースを文理探究(特進)コースに、文理総合コースを文理探究(標準)コースに改編
	27.	4.	中 友明、十三代校長として着任 文部科学省より「英語教育強化地域拠点事業」に係る研究校の指定を受ける
	28.	4.	「グローバルネットワーク京都校」の指定を受ける
	30.	4.	松本啓二、十四代校長として着任
	30.	8.	優良PTAとして文部科学大臣表彰を受ける
令和	3.	4.	中村健史、十五代校長として着任
	5.	4.	野村康隆、十六代校長として着任

東宇治高等学校50年の歴史



初代校長
深井隆三



授業風景





文化祭





|| 体育祭





部活動



弓道部



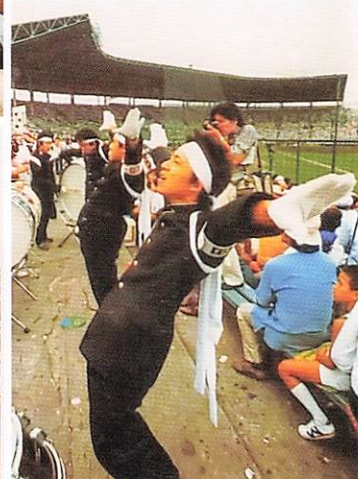
バレーボール部



サッカー部



吹奏楽部



野球部 (甲子園出場)



野球部



野球部 (選手宣誓)



吹奏楽部



|| 研修旅行 [オーストラリア]



|| 国際交流 [アメリカ]



|| 国際交流 [タイ]





研修旅行 [台湾]



研修旅行 [マレーシア]



研修旅行 [タイ]





研修旅行 [北海道]



マラソン大会



アカデミックサタデー



コンサート



マラソン大会



コンサート



学習合宿



周辺絵図



フォークダンス



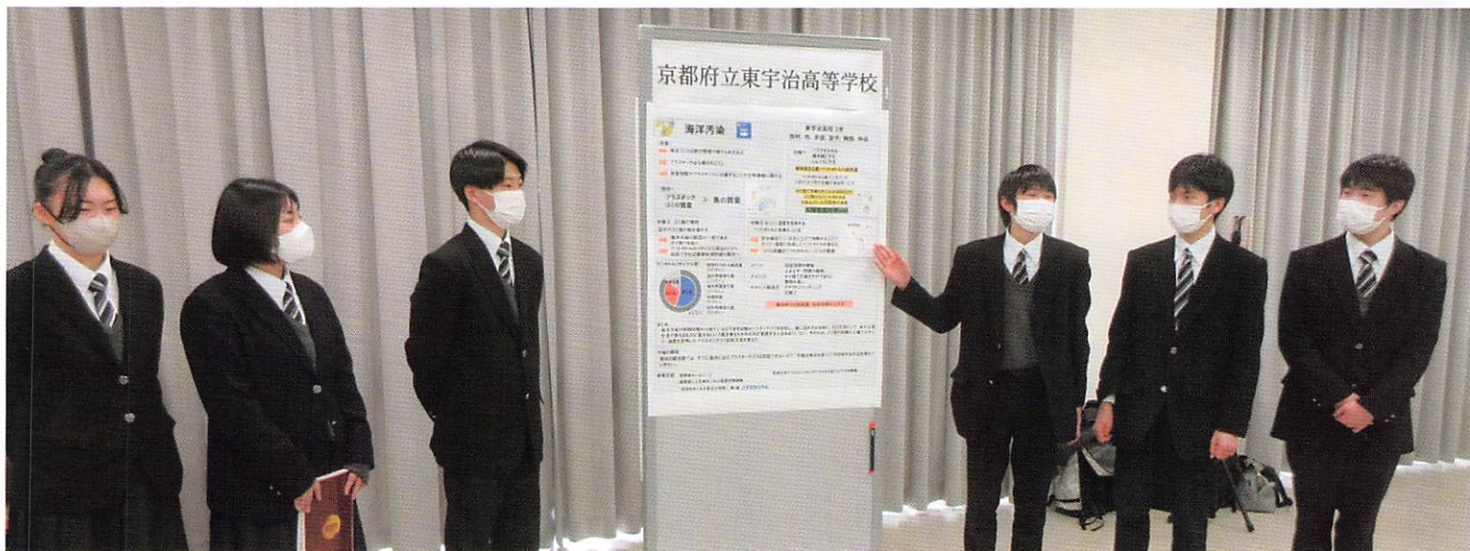
学習合宿

研修旅行 [スキー]





第50回入学式



総合的な探究の時間



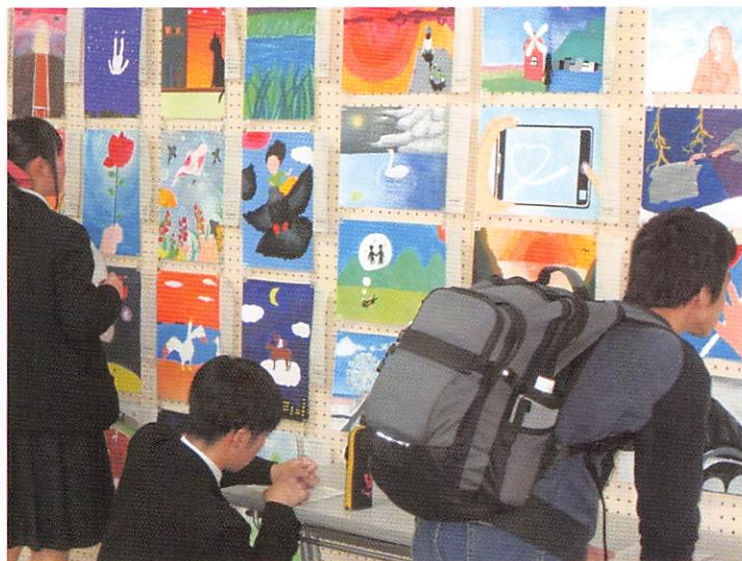
総合的な探究の時間



総合的な探究の時間



ひろがる心展



ひろがる心展



ひろがる心展



ダンス部中庭パフォーマンス



総合的な探究の時間



総合的な探究の時間



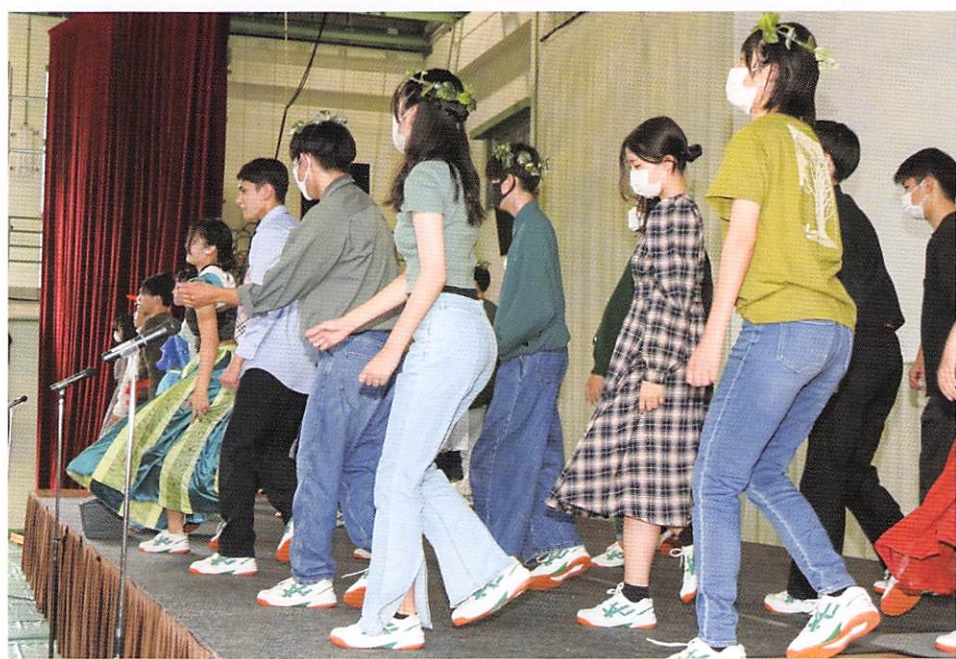
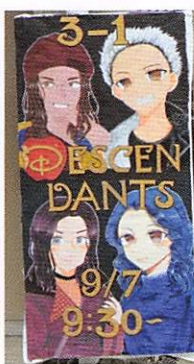
吹奏楽部中庭コンサート



スポーツ大会



文化祭



校外学習



カンケイづくり



ツリーアスレチック



飯ごう炊さん



[神戸]



[神戸]



[大阪エキスポシティ]



[神戸]



[神戸]

研修旅行 [九州方面]



研修旅行 [関東・東北方面]



朝 登校



午前 授業



午後 授業



放課後 自习室



昼休み 昼食



放課後 部活動

本校卒業生
教職員

創立50周年 座談会

在校生
48期生&49期生



京都府立東宇治高等学校は2023年10月に創立50周年を迎える。50周年記念誌を発行するにあたって、昨年10月に48期生と49期生、本校卒業生で教職員として現在勤務している方たちで座談会を行いました。座談会は2つのグループに分かれて実施しました。1つのグループは、48期生を代表して井ノ内祐矢さんと飯田詠美さん、49期生を代表して吉岡海里さんと五十嵐紅葉さん、教職員は谷口博一先生と澁谷鷹也先生の6名により、約1時間アルバムを見ながら語り合いました。もう一つのグループは、48期生を代表して、池田和花と二川楓花さん、49期生を代表して中井太郎さんと白善聖麻さん、教職員は村上真也先生と鳥本純平先生の6名により、語り合いました。

座談会 ◆ 谷口グループ

谷口 皆さんこんにちは!

全員 こんにちは!

谷口 東宇治高校50周年記念の座談会を始めます。実際には50周年は来年になりますので今はまだ49年目で1年生と2年生ですが、50周年歴史を振り返りながら好きに喋ってもらったらいいかと思います。私は3年担任、数学の教員であります谷口博一と言います。私は東宇治高校の卒業生であり7期生なんです。今回ご縁がありまして進行役をさせて頂きます。よろしくお願いします。

澁谷 僕は3年生の担任で英語科の澁谷鷹也と言います。僕も卒業生で34期生です。谷口先生と同じで卒業して大学行って縁があって東宇治高校に戻ってきました。今日はよろしくお願いします。

全員 よろしくお願ひします!

谷口 48期生49期生、50周年に近づいてきましたねえ。座談会には立候補してくれただかな?

吉岡 立候補です。

澁谷 僕も立候補です。

谷口 僕は超立候補です。

全員 笑

谷口 テーマがいくつかここにあるんです。事前に聞いている?

井ノ内 いいえ

飯田 聞いていないです。

谷口 怖いよ、このカード。50周年ですので、テーマを引くときにはTVのようにかけ声なんかつけたら面白いかな? 澁谷先生、なんか良い英単語ありますか?

澁谷 ええ?! …やっぱり fifty ですかね

谷口 短い単語がいいよね。では、僕が「東宇治」って言ったなら「fifty!」って言ってな。

谷口 それでは引きますよ～せーの、一つ目の『東宇治高校の名物』!

例えば体育のアップとか、ってカードに書かれています、みなさんはどんなイメージでしょうか。私は7期生ですので、7期生の体育は休み時間の間に着替えは済ませる、グラウンドを3周走っておく、ケンケンで100m片足で端まで行って、また反対の足で帰ってくる、懸垂を10回する、それを始業のチャイムが始まるまでにやっつけ!

全員 ええ～、エグい。

谷口 無理でしょ?! っていう時代の生徒だったんです。では、今はどうかな? 2年生は?

井ノ内 1年のときは3周を授業の最初でやって、ケンケンでグラウンドの端まで足入れ替えてやって帰りはダッシュで帰ってきて、

で、男子は懸垂を5回。

谷口 5回でいいの?

澁谷 ええ～

谷口 女子は?

飯田 懸垂までは同じ、でもだらだと…(苦笑)

谷口 だらだと、それでも許されるんですね。では1年生はどうですか。

吉岡 今のところ外でやることはないの

2年 何?!

吉岡 屋外でやったときはもっと簡単だったような…グラウンドの端から端までを3往復まで、懸垂は無かったかな。もしかしたら入学直後の1学期だったからということもあったのかもしれないですけど、これから増えてくるかも…って感じですね。

澁谷 グラウンドのアップと体育館のアップってどういう感じですか?

飯田 体育館の時は、10往復走って、片足ケンケンで1往復、もう片方の足でケンケン1往復で終わり。

井ノ内 バレーボールの時は指立てやりません。

全員 指立て?!

谷口 指立て?

澁谷 僕、ちなみに34期の時は始業前には走ってなあかん。谷口先生と同じ。でもチャイムが鳴ってからもアップはやって、外やったら3周走って100m片足で行って帰ってきて、懸垂は10回のまま。ただ授業が始まるまで、っていうのは無くなってました。体育





館の時は、10往復、で片足ケンケンで1往復、もう片方の足で1往復、その次手押し車1往復、おんぶダッシュ1往復でした。すごいアップがしんどい(苦笑)

澁谷 (僕たちの学年は) 選択っていうのはなくて、決められたやつをひたすらやる。3年から選択でした。1年の1学期は集団行動

全員 ああ～

谷口 今の1、2年生集団行動は?

全員 やります。やっています。

澁谷 サーキットトレーニングとかありましたね(懐かしい)。後は多分今は体育では絶対やってないおそらくやってないだろう柔道とか。ありましたね。マットとか。

谷口 なんで柔道やってないの?

飯田 コロナとかで…

澁谷 今すごい良いなど。柔道ほんとに苦手なので。

谷口 僕らの時は、まず入学をする。すると「東宇治体操ー!」っていう、ラジオ体操とは違ってね、東宇治高校のその時の体育の先生らが考えはった「♪チャンチャンチャチャチャチャ…」っていうメロディのね、東宇治バージョンのね。テストがある、そのときにね。ちょっと手が下がっている、でとかではねられて「はい。再テスト!」とかになってね。1学期は東宇治体操と陸上しかやっていない気がする。で、2学期から球技で「待ちましたー!」ってなった感じで。やっと球技させてもらえんのやって。1年生のときは、2年生や3年生が優先なので、隅このほうのちっちゃーいコート描いてサッカーとかハンドボールをやっていたような気がします。で、3学期になると柔道、もう一つは持久走! やって参りました持久走!(ああ～…全員、持久走…)

澁谷 ね、今はまだね、持久走で終わっているけど。僕らの頃はね…ね?

谷口 そういうイベントがあるんですよ。

澁谷 ありましたね…(苦笑い)

谷口 マラソン大会!! いええーい! パチパチ(全員)

澁谷先生の時もあったかな?

澁谷 ありました。

谷口 伝説になりつつある山を、学校出発で学校に帰ってくる。自動車教習所の上の方の山を越える、越えたと思ったらもう一回山越える、そこゴールにしておいてくれたらよかったのに「折り返し地点」や。ハンコ押し

てもらうかなんかして、帰る道には3回目と4回目の山を越えてやっと帰ってくるっていうような。そんなこんなでした。保護者の方やPTAの方が、帰ってきたら、お汁粉作るのか! とかしてくれはって、なかなかお汁粉って用意するの難しいなってことで、飴玉1個。(うう?? 全員)

でも、その飴玉がめっちゃめっちゃ甘く疲れた身体にジュワッと浸み込んでくる。あれは良かったな、と。走るのなしてそれだけでもよかったんですけどね。ってのが、いい思い出なのか、何回同窓会してもその話題になりますね。だから、みんなも、言っちゃ悪いけど、マラソン大会なくなっているんだけど。いや! 先輩たちに聞いたんです。やらせてください! ってね。言うたらどうですか!?

(生徒苦笑い)

澁谷 僕の場合は豚汁が出てきていました。

(豚汁!? 全員)

はい、豚汁。(いいなあ。全員)

あれがめっちゃめっちゃ美味しくて、ホンマに旨かったです。

入ってわかる 東宇治高校の ディープな世界

澁谷 ちょっと恋愛系の話いいですか?(おっ?!) えーと4階の渡り廊下すぐく見晴らしが良くてね、あの、アニメの舞台にもなったりしてるところだと思うんですけど、1年生の時に隣のクラスに好きな子がいて(うふふ…)、そう、で、あの一今の1-5なんです、自分がいたの。隣のクラス1-6に、好きな子がいて、で、木曜日だったと思うんですけど、7限、僕らは7限あったので、6限終わって、7限の化学の時間、化学のすごい厳しい先生だったんですけど、もう隣の子とかにも、もうこれ終わったら告白するわって言って(一同「おおおー」)、授業中にもこそこそこそと喋りながら、授業終わって、みんなクラブ行く途中で、その子のカバンをがして持って、で、渡り廊下で告白しましたね。

谷口 カバンを持ってってどういうこと

澁谷 がーって引きずって、向こうも何何何

何? ってなってる状態で、渡り廊下まで行って、渡り廊下で告白しました。

みんな おおー、すばらしい。パチパチパチ(拍手)

澁谷 だから、あの、渡り廊下いつも歩いているときに、ああ、ここで告白したなあと思いつながって通ってます。はい。

谷口 その結果がどうか聞きたくありませんか?

五十嵐 聞きたいです

澁谷 聞きたいの? あの、その子とは付き合っていましたね。はい。

谷口 ということは、渡り廊下は成功率が高い。

澁谷 高いと思いますよ。その後も友達も渡り廊下で告白して、オッケーもらってたはず。心理とかでやる吊り橋効果的な、ちょっと高いところ行ったらドキドキするっていう感じで、何かそういう効果を得たのか否かわからへんけど、そこがちょっと僕にとってはディープですかね。はい。

谷口 やっぱりね、告白するとか、高校時代とかすごいなって思いますよね。昨日まで全然すれ違ふのに意識してなかったのに、ん? 今日からあの二人雰囲気おかしくない? っていうのがね、文化祭明けとかにあったりするんですけどね。

谷口 僕もね、告白した経験はありますがけれども、大分昔のことなんでね、忘れてしまっていて、うーん、でも今で言う、自動販売機のあるところかな、ちょっと四時間目終わったときに来てな一言うて、呼び出しとして、そして、何かな一思ってるわけですよ、よっしゃ今から言うぞ言うぞぞと思ったら、体育終わった奴らが「おーしんどかったねえ」とか言うて後ろ通るし(一同笑)、機会を逃す、これはアカンわと思ってもう一回放課後って言うて、なんか二回告白したみたいな気になってね、上手くはいったんですけどね、長続きはしませんでした。

全員 (笑う)





II 制服いまむかし

谷口 制服いまむかし、もちろん今の一年生二年生制服を着てますが、考えると高校選びをするとき、制服で決めたりすることがあるのだろうか。自分の友達、こっちの高校の方が制服可愛いし、みたいなことで決めたりするようなことがあるのではないかと思ったりしますが、制服について2年生どうぞ。

飯田 (東宇治高校の) ポスター見てて、このネクタイに一目ぼれしました。

谷口 ネクタイ、そうでしょう!

飯田 このネクタイが好きで、ある意味そういう理由で、この学校に入ったっていうのもあります。

谷口 なるほどね。どうしようってなっていたときに、このネクタイ締めたいっていうのが決め手になる。っていうことは別に締めなくてもいいときにもネクタイを締めている。いいですねー。ネクタイがきっかけになりました、と。

井ノ内 僕は服装にほとんど興味を持たないんで、制服はどうでもよかったです。着られたらいいかなって。

谷口 充実してます? 寒いときにはセーターとか

井ノ内 カーディガンしかもってないので、セーター買うか悩んでます。冬寒いです

谷口 一年生はどうでしょうか

五十嵐 なんか制服だけで選ぶのは、ゼツタイにやめとけと色んな人から言われていて、制服なしで。

谷口 制服を置いて、学校を選んだ。で、実際東宇治を選んだらこの制服やった。使いづらいとかそんなことなかった? 大丈夫?

五十嵐 シャツが Cutterシャツ と思っていましたが、東宇治は違うんやって思いました。

谷口 それはボタンダウンだからってこと?

五十嵐 なんか、硬い生地のスーツの(インナーシャツ) 生地みたいじゃないんやと思いました。

谷口 服いまむかしやから、OBの方も制服について・・・

澁谷 ありますね

谷口 今とおなじ?

澁谷 全然違います! 全然違うし、まずセーターなくて。シャツもさっき言うてた Cutterシャツ みたいな パリッとしたシャツで、やわらかい感じでもなく、プレザーが紺色、ズボンがグレー。

谷口 グレーか。

澁谷 ネクタイは校章がところどころ入った、今のネクタイとカリボンとは違うもので、ちょっと細長い、そういう斜線でなくて校章が入ったネクタイ。プレザーの襟の部分に校章(のピンバッジ)をつけてました。今はもうなくなっちゃったんですけど...

谷口 校章ね...校章も僕らの時代も必ずつけるみたいなんになってましたね。校章も留めるねじがぼきんと折れたりすると、今で言うところと購買部に買いに行って、新しいのを買ってつける。今校章がないから、50周年をきっかけにもう一回みんな校章つけましようってなったらどうですか?

全員 うれしいです。

谷口 やっぱり50周年の記念って言うたときに記念品もつくらなあかんやろうし、生徒たちがよろこんで~してくれるようなものが何があるやろうとか考えていて、そういう最近校章ってどうなんやろう? 50周年記念っていうたら、この東宇治の「ひ」校章ってどんなにか形がわかるやろ? 東宇治の「ひ」、宇治の「U」、どっちやろ?(くすくす...両方?...)- 一応東宇治のひらがなの「ひ」とアルファベットの「U」の中間的な形をデザインしたらいい。その校章の形を、高校が当然1期生を迎えることは決まっていたし、歴代ずっとその校章は変わらないし、校舎の上のところにでっかくばかかって乗っかってるやん? あれは5期生が記念に残していかはったもので。

澁谷 先生の時の制服はどんなでしたか?

谷口 僕の時の制服っていうたら、制服って言わへん。

澁谷 ええ?(笑)

谷口 僕ら時は標準服っていうそういう言い方になってました。標準服やから、これっていう決められたやつではなくて、詰襟ってわかります?(アルバム開けて) 出た!

澁谷 青いのが僕の代で、たぶんそれには校章がついているはず。。

谷口 制服って感じやけど一応標準服っていう? そういうふうない方になっています。



(アルバムの写真を見て) 大体こんな形なんやけども...

全員 全然違う

谷口 これ(アルバム) が7期生となると、俺の写真も...載ってるのか!? (探す様子) 7組、8組、そして...10組まであったんや!

全員 えー!(笑)

澁谷 時代ですね。10組ですか。僕の時は6組でした。

谷口 おった笑! 7期生高3の時の谷口です。記念やし、見せてあげよう。

一同 (笑)

澁谷 こっちのやつ(澁谷先生の代のアルバム) に校章がありますね。みんなつけてますね。ちなみに僕は4組です。

全員 笑い

谷口 ほんまや! みんな全員の校章つけてる!

全員 全然違う! すごい!(しげしげ眺める)

澁谷 谷口先生の時は、英語探究とかあったんですか?

谷口 ない。

澁谷 ない!?

谷口 うん。10クラスあったけど、10クラスみんな立場平等っていうか、同じやって。

全員 へー!

谷口 3年生の時とか、科目とか選択するやん。理系の選択をしているとか文系を選択しているとかあるけど。

全員 へー

谷口 ミックスホームルームやったから、結局理系やいうても、クラスには女子はいたし。

澁谷 体操服も全然違いますね。

谷口 体操服?!

井ノ内 ほんまや

谷口 昔は卓球部があったし、ハンドボール部があったし。

澁谷 ラグビーもあった。

谷口 ラグビーまであるし!

飯田 ICCもある!

谷口 結構インターハイとかは、ハンドボール部男女同時出場とかあったしな。

澁谷 バドミントン部とか見てみ。僕男子1人だけなんですよ。

澁谷 だからずっと女子バドミントン部だったんですよ。ほんま。ずーっと。

澁谷 今の校長先生がいはるんですよ。中村健史先生ですね。

飯田 ほんまや。

井ノ内 地歴公民科。

飯田 わかいな。ESS やって。

吉岡 コーラス。コーラスとか華道とかある。

澁谷 ESS はあれやね今の ICC やね、



谷口 こうやって記念に残るものっていうのは何年後かの生徒だったりが見ると残りますよね。この座談会の記録も50周年記念誌みたいなのの中に入って、次60周年やる時とかやったら50周年で何してたんかと言うて、多分見はるでしょうし。君達は歴史に名を刻んでいくわけですよ。

全員 おおー。100周年がどうなるか。

谷口 はい、というなので、アルバム。卒業アルバムを作るの楽しみになってくるやろ。

50年後の東宇治高校

谷口 もう一つ、50年後の東宇治高校というテーマがあるんです。僕やと50年たったら、110歳ぐらい。次の50年ってどんなふう思うんでしょうか？ 何かちらっと思うようなことありますか？

飯田 普通に映画とか見て、制服も廃止されて、なんか校舎も綺麗になってすごいが

ローバル的な東宇治が思い浮かびます。

谷口 なるほど、校舎の建て替えね。思うわな。みんな窓ガラスだって何かちょっとひび入るとこいっぱいあるし…そういうのは50年後には何とかね。やはり1年生はどうですか。

吉岡 黒板とかそういうところとかいろいろ含めて、あのめっちゃくちゃ未来のものになって。

谷口 確かに今一年生はiPadを使い始めてるわけ。ここで(1年と2年で)ギャップがあるねん。iPadと使い始めています。だからそこを考えると黒板でチョーク使って書くみたいな機会もどんどん減ってくるんかな。と想像しますし、次の50期生入ってきたときはどうなんやるとか、ひょっとしたらそのうち、黒板なんてものはなくなってるかもしれない。っていうふうになるし、階段もなくなって全部エスカレーターみたいな。

滋谷 あつたらいいですけどね。

谷口 わかんけど、もう新しいものを積極的に取り入れていく学校にはなって欲しいな。何かもう去年まではこんなんやったら今年も、じゃなくて、今年はこんなんやってみましようよ、来年はこんなんやってみましようよと言うて50年間また新しく積み上げた

らものすごく、他の学校と比べてもいるんな魅力のいっぱい詰まった高校になるかもしれないし、そんなふうのを期待しながら、今後50年を見ていきたいなと。歴史あるしね、さっき言った5期生が残してくれたあの校章のオブジェ。ゴミ置き場の上にある時計は7期生の卒業記念品。

滋谷 今後もね、ここにあり続けてほしいなってすごく思います。また10年後20年後、僕がどうなってるかわからへんけど。ちょっと戻ってきたら懐かしいなって思いつける。そんな風な学校であってほしいなってすごく思います。

谷口 ありがとうございます。

滋谷 はいありがとうございます。

谷口 みんなの思いがどんどん乗っかっていくようにね、50周年記念、来年また何か企画ありましたら、お手伝いいただいて、それではお時間にもなりましたが、最後は掛け声かけて終わりにしましょうか？ それでいきます。

谷口 東宇治 fifty.

谷口 ありがとう。

全員 ありがとうございます。

座談会 ◆ 鳥本グループ

鳥本 まず「なぜ東宇治高校に入ろうと思ったのか」「どんな印象があったから入ろうと思ったのか」こんなことからしゃべってもらおうかなと思います。

実際入学してみて1年ちょっと生活した人と半年くらい生活した人と、村上先生は50年前のことを思い出していただきながらしゃべっていただけないかあと。

池田 授業を受ける体験型のオープンキャンパスに行ったんですけど、その時に先生がみんなを巻き込んでいく授業が楽しくて、それが楽しくて東宇治高校に入ろうと思いました。

中井 中学校3年生の時に、直感で選んだ部分がわりと自分は大きくて、わりと勢いで入った感じです。

二川 もともと私は東宇治を受験するつもりはなかったんですけど、英語科があることにめちゃくちゃ惹かれました。で、結果楽しいのでよかったです。

白善 僕は東宇治高校で前期選抜の説明会があって、1回この門を入った瞬間、上の一棟の階の先輩みんなが手振ったり、迎え入れたそうなのが、めっちゃなんか高校生らしい。めっちゃ陽気な感じで絶対楽しいなあと思ったのがきっかけになりました。

鳥本 僕はねえ、ちょうど僕の1つ上の学年から地域制みたいなのが撤廃されたんですね。僕は城陽から通ってたんだけど、城陽の人でも木津の人でも八幡の人でも受けられる

ようになったっていうところがあって、当時、携帯電話ね、みんなはスマホだけでも当時はガラケーがあって、早く欲しい、でも家の約束で「高校に受かったら買ってあげる」ということで早く決まりたい。で、一回中学校の行事で高校見学に行って、たまたそれだけで東宇治の前期試験を受けよう、で合格してしまったんです。それで、携帯電話もゲットして、無事東宇治高校に通うという形に、僕は東宇治高校32期生になったというところですね。

村上 全然時代が違うからね、入試制度が根本的に違うので、今、鳥本さんがちょっと言わはったけど、地域制っていう、あの住んでる住所で、場所どここの府立高校行くかっていうのが振り分けられるんですよ。バス停方式とか言っって、自宅に1番近いバス停がどこかを目安にしてどこの府立高校へ入学するかが決まるんです。僕は(京都市立) 桃山中学校出身で、兄・姉は桃山高校に行っているんですね。だから桃山高校へ行くもやと思ってたら、僕の受験の年から、東宇治高校ができたんですね。で僕は京都市の人間なので、東宇治、宇治の公立高校には行かへんやろうと思ってたら人数調整で、宇治に一番近い小学校の近くに住んでる人がこっちに振り分けられて、で東宇治に通うようになったと言うね。だから理由は、入試制度で来ることになったと言うことです。予定としては桃山高校だったっていう。



入ってわかる 東宇治高校の ディープな世界

鳥本 高校生活どんなかかってことを、それぞれ聞いていきたいなと思うんですが。

白善 想像通り先輩とか先生方の陽気な感じが伝わってきて、日々飽きない高校生活っていうのが一番大きくわかったかなあと思いますし、学校の行事とかも全学年絡んで楽しく過ごせるのがいいと思います。

鳥本 特に行事とか毎日の授業に飽きない楽しさを感じますか？ 特に行事？

白善 はい、行事とか毎日の授業とかも楽しい雰囲気ですぐ作れるような学校なんで、毎日が楽しいです。

二川 みんなが、全学年、先輩も後輩も仲が良いのと、授業をしていてもみんな積極的



にしゃべって、わからないところがあったら、みんなで教え合っ、先生側もちゃんと生徒のわからないところに質問してくれて「誰一人取り残さないよ」という協力ができて学校で、めちゃくちゃいいと思います。私が部活に入っているからなんですけど、部活の先輩もめちゃくちゃ優しいので、東宇治にしてよかったなあと思います。

鳥本 授業も寄り添ってくれるような授業やなあって感じる？

二川 はい。

鳥本 部活は何部に入っている？

二川 弓道部に入ってます。

鳥本 弓道部は有名やね。東宇治で最も有名な部活の一つかもしれないね。先輩も非常にフレンドリーでということですね。

二川 はい、めちゃくちゃ。

池田 自分も授業に関連してのことなんですけど、自分が驚いたのは、2学期に保健の授業で、みんなの前で授業を自分がして、成績が決まるって授業があって、あ、こんな成績の付け方もあんねなって思って、それが、一番東宇治で面白いなって思ったし、いいなって思ったんです。紙のテストだけじゃない…

鳥本 自分たちで発表したりしていく授業とか、いわゆるペーパーテストだけで測られないような、そんなところなんか一つ楽しさの秘訣かな、ってことですかね。

中井 白善くとちょっと似ているんですけど、行事がすごい楽しいなと思って。ちょうど僕たちの中学2年生3年生のとき(令和2年度・3年度)は、コロナですごい行事がつぶれちゃったから、その分、高校にはいったら、自分たちで楽しい行事を作り上げていくことができたらいなって思っていて。初めての文化祭は、すごい心に残っているし、めっちゃ楽しかった。

鳥本 やっぱ、みんな行事ね、2年生は1年生の時に文化祭なかったし、中学生やった人らもそんなものが全部なくなってきていた年齢だったね。コロナでね。文化祭どうでした？ みなさん。やってみて。

池田 自分たちは、当日に学級閉鎖になってしまい…

鳥本 そうやったね…準備段階とかがどうでした？

池田 自分は主役をやらせてもらって、ダンスできないんです。でもダンス経験者の人とか上手な人が、ずっと誰かしら付いて教えてくれていて、すごく協力して作り上げていくてきたので、楽しかったです。

鳥本 団結感みたいなものっていうのがあった？ 初めての文化祭、1年生、クラスで舞台発表作り上げる段階ってどうでした？

中井 最初はバタバタでしたね。準備期間も夏休み全然集まらなかったし。どのクラスもゆったりしていたんですよ。で、直前にめっちゃ焦りまくって、二日前くらいに完成っていうクラスもありましたし。

村上 学校生活ねー。あのアルバム久しぶりに見させてもらったんですけど。アルバムの中見ると机と椅子を運んでいっている小さな写真があったんですけど、これ、一か所に集めた机と椅子をそれぞれ、生徒が持って教室へいくところから始まっていたんですよ、と思って。先輩がいないからね、

僕らが最初やし、ちょっと工事も遅れたみたいなので、まだ工事もしてるし、そんなんでスタートしてるから、自分らで東宇治高校は作っていくんやという、そんな意識はあったかもしれないですね。第一、入学式がここじゃないからね。木幡小学校の体育館を借りた)やから。だから3年間で東宇治の設備も同じように揃っていたという、そんな感じですね。人口が増えていくのがちょうど東宇治ができたあたりからなので、新設校がその後たくさんできますよね。菟道もそやし、西宇治もね。今はないけど、(東宇治高校が出来る前の宇治市内の公立高校は)城南があっただけかな？ だから、先生方もきちっとやるうぜという、共通認識で取り組んではったような感じは受けました。というような感じで始まったかな、高校生活が。

鳥本 文化祭とかはあったんですか？

村上 ありますよ。

鳥本 1年目から？ どんなことを？

村上 えーっとね、1年目、1年生の時、僕のクラスは1の4やと思うんですけど、その4組がお化け屋敷をやったのを覚えてますね。教室を全部暗くして、で、通路を作って、わーって脅かしに出るって、そんなやつ覚えてます。で、2・3年生は体育館を使うので演劇をやったと思います。その2年生の演劇の事はよう覚えているんですけど、3年生の演劇はすこんと抜けてて…なんでやる？わからんけど。

鳥本 体育館は1年の時はなかったんですね？

村上 途中からじゃないかなあ、入学式行えなかったんやから、最初はちょっと使えなかったと思いますよ。

鳥本 僕も東宇治の文化祭っていうのは、確かに盛り上がったなあって、記憶がありま

す。で、僕が入った時の東宇治って、統廃合の話があって、東宇治高校ってその可能性がある学校だったらしくて、あとあと聞いたんだけどね。だから、先生らが熱かったね。熱血みたいな感じで受験指導とかそんなところに非常に力を入れて、逆に言うところ以外のところは、文化祭と体育祭と研修旅行とだけでええやろと。

そんな感じで9月入って文化祭が二日間あるでしょ、で、その次の三日目に体育祭があったね、で、1年と3年の行事は終わり。みんな4月に校外学習とか行ったでしょ？ 僕たちの時は、そんなー一切なしで、文化祭二日間やって体育祭一日やって行事終わり。で、2年生は研修旅行に行くところで、プラスアルファがあったけど、僕らはそれ以外の行事ってなかった。その代わりね、一つ上の先輩とかはすごい受験頑張っ、京大に行った人とかがいたりして、受験成績とかすごいあげててね、当時は土曜日の授業はなかったんだけど、アカデミック・サタデーっていうのがあってね。来たい人は補習するからどうぞ、って。来たい人はいいながら、だいたい、まあ一応登録しておこっかなって。一応登録しておこうってなったら、しっかり出席とかはとるから、さぼたらすんどく怒られる。そんなんで、やらんよりやったほうがいって感じでやって、登録したがために、そんなに参加しながらね。そういう雰囲気共有してたなって。



そんな中でも、文化祭はそれなりに盛り上がりましたね。1年生はクラス展示でした。僕らは、絵本の世界をいろんなもので作り上げて貼り合わせて、なんかそんなで。2年生は舞台発表。舞台上、今年みんながやったような舞台パフォーマンスやりました。で、3年生が演劇。でね、3年の演劇が1年生から見てると、レベルが超高いんですね。今はコロナの影響でなかなか演劇はできないんだけど、50分くらいの演劇をどのクラスも、ちょっと圧倒するくらいの感じでやって、1年生の時の僕なんか、こんなんできんのかなあって思うくらい、もう夏休みに入ると、そのへんの渡り廊下で、演劇部じゃなくて、各3年生のクラスが「あ・え・い・う・え・お・あ・お」とか発声練習していくってようなかたちが染み付いているから、僕らもそれに合わせて



何かやってね。。。

では、さらに「ディープな世界」ってことなんですけど、入って、東宇治、なんかこんなところがあったで、みたいなことないですか？

村上 体育の授業でグランド作りをしました。石ころ拾いました。横一列に並べ！ いうて。それが授業でした。

全員 へー。すごーい。

鳥本 石ころ拾いが授業？

村上 はい。それが体育の授業とかにね。

鳥本 それでほんまにグラウンドって出来ていったんですか？

村上 そうそう。体育の時間とかありますよ。でも、(工事終了直後で) 小石とかがまだたくさんあるので怪我するじゃないですか、そのままやったら。

鳥本 部活もやっていたんですか？

村上 やってましたよ。私はソフトテニスでしたけど、コートはそこ下(西側)のコートしかなかったから、このハードコート(東側)とかは野球部が甲子園に出たときの寄付の一部でできて、使えるようになって。我々のときは、硬式と軟式と交代で使っていましたね。それと1期で入ったときに、同じ桃山中学校出身の野球のバッテリーがまあまあそこそこやったので、京都府の夏の大会で決勝までいってね、準決勝、決勝までいって、準優勝だったけども、勝ったら校歌を歌わなダメじゃないですか。でも校歌がないんですよ！

全員 ほえー

村上 まだ最初は。で、それで校歌作らなアカンってなって。で当時の校長、深井隆三先生っていう体育の先生やったけど、生徒たちにも校歌の歌詞、ええのがあったら出して、募集をかけてまして。で、結局は校長だけやったんやけど。だから、今、教室に貼ってあるのは、あれは初代校長の作った歌なんです。あれは、急速、急いで作ったんだよ。

鳥本 野球部の快進撃に合わせて？

村上 そう。合わせてねえ。

校歌がないと不細工やしね。でも甲子園に行くようなことになったらね、そらね、大変なことになるし。

鳥本 1年目から行く可能性があるくらい強かったんですね？

村上 強かったねー。その桃中のバッテリーが頑張ってたからね。強かったですね。

鳥本 しかも、1年生？

村上 そう、1年生バッテリー。

中井 ディープかって言われたら難しいんですけど、総合的な探究の時間とかは他のクラスとかといっぱい関わる場面もあって、やっぱ入ってからじゃないと授業の雰囲気とかは伝わらないものもあります。入ってからなんだと。

鳥本 意外とクラス単位ではないって感じがする？ 総探ってみんなやっているね？ 総探ってやってみてどうです？ 東宇治の総探ってわりと特色があるのかなあって、って思っているんだけど。地域の人と関わって、学びのあるものになるのかなと思っているんだけど。どう？ やってみて。

白善 宇治にある小学校中学校に通ってたんですけど、地域の話やクラスと先生だけで考えるっていうのは多かったですけど、その人を選んで実際に話を聞いて、考えていって言う、本格的な、そんな授業やってなかったんで、新鮮で楽しいです。

二川 まず、高校になったら規模が違うなって思いました。ちゃんと地域に根差したことをやったり、今後それが将来につながるかもしれないってことをやって、より総探をやっていることを実感できたりしている内容でした。

池田 高校になると、今自分がやっている取り組みなんですけど、下水道の人にお話を聞こうってなって、小学校だったら先生が用意してくれてってなるんですけど、高校やったら、もう「自分たちで電話して」って「自分たちでアポとって」って、みたいに、それがすごく違うなあって。

鳥本 やっぱり自発的に何かやったなあって感じがする？

池田 はい。

中井 僕も中学校の時に総合学習があったんですけど、やっぱり、何かできることが違うなあって実感しましたね。中学生の時にやったことと、高校になってやったこと、なん

かすごい変わった感じがします。

鳥本 レベルアップした感じする？

村上 はい。

鳥本 僕が「ディープな世界」って何かなって思うとね、なんやろなあ、購買やね。毎日昼休みに購買に行ってた。で、今は、コロナのこととかあって、買ったらすぐにでていかなアカンと思うんだけど、僕らのときはね、購買の奥のスペースあるでしょ？ あそこのところで、購買のおばちゃんともすごい仲良くてね。いつも決まったメンバーでそこにたまってね。いつも昼休みにそこにたまっては、ちょっと買って、昼休みを過ごしたって感じ。購買の居心地がよかったなあって。

それから、当時ね、研修旅行がタイやって。なんかね、校長先生がタイとつながりがあったね、当時はⅠ類(普通コース)・Ⅱ類(発展コース)というかたちでね、僕はⅡ類の文理系っていうところにいたんだけど、当時は全部で5クラス、4組がⅡ類文理系、5組がⅡ類英語系、Ⅱ類英語系はオーストラリア、Ⅱ類文理系はタイに行くって決まってる。タイに行くって珍しかったんちゃうかな。今、学校の玄関にいろんなもの飾ってあったりしてあるよね。たぶん、タイとの交流のものもあるかな。でも実は、僕はタイに行きたくなかったんだけど…

全員 え？ (笑い)

鳥本 夏休みに一週間行かないとならないから、どうしても夏休み一週間行くのは嫌だな。なんか行かへん手はないかなって、いろいろ考えてね。研修旅行の事前学習が進んでいくなかでね、「何か心配なことはありませんか？」とかアンケートに書くところにね、「必ず行かなければならないのですか？」と、僕は書いたのね。

全員 (笑い)

鳥本 そしたらね、校長室に呼ばれて。

全員 (笑い)

鳥本 校長室に呼ばれ…「え、なんやろ？」と思って行ったら、「なんや、タイに行くの不安か？ 心配か？ 怖いんか？」と聞かれ、「…そんなことはありません」と…

全員 (大爆笑)

鳥本 で、まあ、ただサボりたいだけやったからね。そういうことはありませんってことで通常通り行くことになったんだけどね。

行ったら行ったで楽しかったね。ゾウ乗った



座談会

り、ホームステイしたり。着いたら一人ひとり、ホストファミリーと引き合わされて、ホストファミリーの家に行っただけで、いろんなところ観光して。三日後くらいに、またどこかで集合して、みんな現地の服とか着ながらね。交流とかしてね。意外と行ったら面白かったなあ。



東宇治高校での通学路の秘密教えます

鳥本 村上先生って通学路って。

村上 私は自転車通学でしたからね。で、この前の道ずっと降りていて、で、宇治の府道と合流する交差点、ありますよね？ そのところがまだできてなかったから、ちよと手前で曲がって、でこの坂の道を入れていくと言う、そういうかたちだったんだけど。通学路の道は、外環出て、宇治の府道の方へ入って、途中でこの坂へ合流するってね。木幡小学校の近く通って。帰りとかは御蔵山商店街によく寄ってた。喫茶店があったので、そこへ友達と入ったりなんかして。ほんで、回転焼きを売ってる店がある。…え、みんな回転焼きって言うよね？

現役生 うん、知ってます。

村上 それが1個10円やったかな？

全員 10円!?

村上 うん、白あんと黒あん、小豆のね、赤あんであって。それを帰りにちよこっと食べてたような思い出もありますね。

鳥本 風景って全然違いますか？

村上 風景はねえ。この学校の前、今は家ばかりですけども、当時は茶畑がありました。で、奥は住宅街はまだないから、医療少年院の前を通るしかなかったから、そこを通過して、ずっと道なりに行くと、炭山の方へ行くじゃないですか。あの道しかなかったです。(山科)自動車教習所とかあるよね？ わかるかな？ で、炭山の方へ行って、まあカントリークラブと言うゴルフ場があって、炭山で下りて、で天ヶ瀬ダムの方へずーっと行ってそれがマラソンのランニングコースだったんです。はい、よー走りました。はい。

鳥本 だから、これが当時ですよ？(アルバム写真をさして)

村上 そうそう。カラーやったらいいのにな。茶畑から写しているんですよ。

鳥本 だから、ここらへんはほんまに一面茶畑やったってことですか？

僕が通っている頃は、だいたい今と同じ風景。新しい店ができたとか、動物病院ができたとか、そんなんもあるけれども。大きく変わらず。

中井 自分は京阪の駅から通っているんですけど、一か月くらいいたら、もっと近い道ないかなって友達と探して、今は近い道から通うようにしています。

池田 自分は、通学路っていうよりも景色なんですけど、東宇治高校の桜並木が、通ってて春すごいきれいだなあ、って。あと、中井さんと一緒に、やっぱり近道とか、回り道とか、寄り道とか。部活の帰り道みんなで探したりとか、公園見つけたりしたりとか、すごい楽しいです。

鳥本 通用門のところやね？

池田 はい。

鳥本 あれはいつもね、技術職員さんがきれいにしてくださってね。中庭とかもすごいきれいよね？ 教員になって気づいたね。当時はね、僕はなかなかそこまで目はいかへんかったんやけどね。

二川 自分は、木幡駅から東宇治通っているんですけど、木幡駅から出て東宇治に行く通路で3つ方向に分かれるんですよ、そこで自分は一番近いのは真ん中だと思っているんです。近道はそこかなって思っているんです。

鳥本 3つあるうちの真ん中の、三本行くところの真ん中？

二川 そう、朝とかオススメです。

白善 僕も自転車なんですけど、やっぱり通学路でパツと思いつくのって坂なんです。で、その坂を電動自転車の人は一瞬でパーって行くんですけど、僕マウンテンバイク型の自転車なんで、やはり坂登るのがきつすぎて。で、歩いたり。中学校の印象よりもずっとつらいなあって。

村上 僕は歩くことはなかったよ。はは。

鳥本 自転車で？

村上 うん、自転車で。坂。僕も自転車通学でずーっとそこ登ってきたけど。帰りは気持ちいいよね？

白善 はい！ 帰りはばあーって。

村上 ばあーって!!

鳥本 じゃあ先生は登りでも足を下ろさず、こぎさって？

村上 はい、はい。白善くんはどうしてもおろしてしまうの？

白善 最初は、ぜんぜん足をつけずについていたんですけど。もう、面倒くさ過ぎて…。

村上 ははは。

白善 朝早く行って、ゆっくり歩いて行って

いますね。で、8時くらいに着くくらい。

鳥本 僕はねずっと JR の木幡駅から歩いて通っていたから、自転車で通うことはなかったんだけど、うん、夏がね、暑いからね…うん、どうしても夏の教室着いたあとの、あの汗の感じね。あれが…今やったら思い出なただけだね。

現役生 (はは、わかる!)

村上 全教室にエアコン付いてました？ 先生の時。

鳥本 僕の時は付いてました！ 教室には付いていて、特別教室はわからないですけど…。暖房はヒーターで、グラウンド側の壁に付いてました。だから壁側だけあったまる感じ。そのヒーターの側の席のやつがカバンにチョコ入れててね、カバンの中で溶けて大変なことになってましたね。

現役生 (笑い)

村上 もちろん僕の時は、そんなの付いてないしね。

鳥本 そうですよ。

村上 ないない。

鳥本 扇風機はあったのですか？

村上 あったかなあ。覚えてないなあ。汗だらだら。

鳥本 そんな中で、高校生活ですよ？

村上 そう、それが青春!

現役生 (青春!)

村上 もう半世紀前の青春。

鳥本 みんな、これが青春になるからね。

現役生 (ふふ。はは)

村上 汗をいっぱい流してね。

現役生 (はは、確かに)

鳥本 たくさん話を聞いて、おもしろかったなあ。一期生の話って面白かったね。



現役生 (みんな、うんうん)

村上 そうですか？ 時代ちゃうもんね。

鳥本 僕は32期生。だから村上先生は31個上。現役生は、僕の16個17個下で。50周年を迎えるってことなんですけど、50年後、100周年をイメージしたときに、東宇治ってどうなっているかな。どうなっているのが嬉

しいかな？50年後って、僕やったら84歳。みんなは、67、68歳とかっていう年齢のときにね、もしかしたら東宇治がまたこのような…50年、100年ってやっぱり節目なんだよね。みんなも、セレモニーやイベントとか耳に入ってくる可能性があるね。50年後の東宇治って。



村上 僕、一つ残念なのは、久しぶりに東宇治に来させてもらって、校舎が白くないねんね。「白亜の学び舎」ってね。で、剥がれているところあるじゃないですか？ ああいうのは直してほしいな。京都府に、直してほしいなって思うね。

鳥本 先生が来たときは、本当に白かったんですか？

村上 うーん。そんなに鮮明に、感激もしてなかったけど…でもね、「白亜」って。

鳥本 校舎見ているわけでもんね。

村上 校歌の歌詞の中にも「白亜の学び舎」ってありますもんね。なおしてほしいな。

鳥本 もう、黄色いよね？ 32期の時にくらべても。ちょっと白黒やけど、やっぱりね。くすんでない？

村上 少なくとも剥がれていないよね？

鳥本 確かに、100周年のときね。校舎、老朽化とか甚だしいだろうしね。きれいになってほしいよね。残っていたら、修理するでしょうけどね。でも少子化になっていくからどうなんかな？ ちょっと50年後って、なかなか実感が無いのかもしれないけど。50年後、東宇治の今後、自分も含めて、どうなんかなって。どうなっていたらいいかなって。白善くんどうですか？

白善 昔と比べて、今は技術もあってiPadを使った授業とかやっているので、黒板とかなくなっていたら嫌だなんて。なくなっていたら、昔あったなあ、って青春を感じるのかもしれないけど。

鳥本 黒板って学校って感じる？ 大事？

白善 はい。

鳥本 僕いらんことばかりしててね。掃除のとき、一回黒板にバンって手形つけたのね。それが消えなくて…。頑張って消しても消えなくて、3年の残り何か月か、消えなくてね。そんなことありました。

現役生 はは。

鳥本 二川さんどうですか？

二川 私も黒板はあってほしいです。白善くんと同じで。50年たったらなくなっているか

もしれないですけど。今の東宇治も残しつつ、ちょっと未来化した東宇治もありかなって思います。

鳥本 未来化した東宇治が、東宇治として残ってくれるといい？ 古さというか、歴史っていう意味でも感じられるような50年後の東宇治も面白そうだね。池田さんどうですか？

池田 自分は体育館にクーラーあったら嬉しいな。格技場あと4メートル長かったら嬉しいな、とか思うんですけど。二人と一緒に変わってほしくないところもあって、イチヨウきれいやなとか、桜めっちゃ手入れされているなとか。中庭きれいだなとか。あと、机に落書きはないので、そういう当たり前、日常にありふれているけど、大切なこと。素敵なこととは変わってほしくないな、と。

鳥本 すごく行き届いているよね、実はね。校舎の狭さとか、暑さ対策とか行き届いてないところ、もっと新しくしたら嬉しいなとかあるけれども。なんか行き届いているよね。目の届くところ。そんなのはそのままであってほしいね。中井くんは？

中井 僕も校舎が全体的にきれいになったりとか、池田さんも言っていたけど、体育館にクーラーついてほしいとか思いますけど。個人的にはトイレもとぎれいにならないかなって。1年のトイレだけ、そのまま!? って。50年後にはきれいになってほしいなって。

鳥本 3棟ね。体育館に冷房ついてほしいし、僕なんかは、床暖ついてほしい。集会とかするとき超幸せ。僕が思うのは、僕が入学してから、教員が熱かったなって、東宇治をどうしていこう？ 残していこうって、たぶん。当時の流れの中で強かったんだと思うんだよね。地域の声も強かったんだと思う。東宇治を失くしたらアカンって。OBとか、後援会とか。そういう声を教員になって聞いていますので、地域の学校として東宇治は、愛されていたんだなって思いますね。今って、地域の学校感が薄まっているよね？ 地域の学校感がないから、地域の学校として残そうっていう声っていうのも強くなっていけないのかなとも思う。古くてもいいところを残して近未来化して、東宇治が東宇治として残っていける、アイデンティティがあったらいいね。村上先生もね、110何歳まで頑張っていたでね。100周年を迎えていただきたい。そんな形で残ってくれたらね。関わっていけ

たらね、自分たちが刻んでいけたらね。自分たちもそこから、成長できたらいいなあって思ったりします。最後に感想を言って締めましょうか。

白善 中学校から見た高校って、未知で怖かったんですけど、歴史のあるこの高校に来て、いろんな人と関わられたし、いろんなことを知れたので、この高校でよかったです。もっと続いてほしいです。

二川 座談会始める前は緊張していたんですけど、東宇治のことを語って楽しかったし、より東宇治が自慢の学校だなんて思えるようになりました。

池田 特になにも考えず通っていたんですけど、改めて、こういう場があって、自分のなかで東宇治ってどういう場になって、どんなところが好きなんかなって改めて考えるきっかけとなって、より学校が新しい視点で見られるようになって楽しいので、よかったな、と。

中井 今日の座談会楽しみにしていたんですけど、話してみても、違う視点からいろんな話が聞けたのですごい楽しかったし。こういうことを続けていくって大切なんじゃないかなって思いました。

鳥本 これが記念誌に残りますしね。文字起こしして残ります。君たちはいい働きをしたかもしれませんね。他の生徒たち、そして50期生もね。村上先生。最後の締めを。

村上 いや久しぶりにアルバムを、私ももらった一冊が残っていたので昨日引っ張り出して見てみて、昔を思い出したんですけども、もう高校時代の事なんか思い出す事はもうほとんど日常生活ではないのでね。まあ、たまたま私が退職した後ここでお世話になっていることもあって。ここじゃないことをまた再度思い出したり話したりできて。これもよい経験、体験だったかな、とっています。で、このあと、みなさんも在学生もそうですけどこの後、東宇治高校で学ぶ人たちに頑張ってもらって。なんか僕が直接的な関わりなかったと思うことでも何か耳に入るようなことがたくさんあればいいなというふうに思いますね。

(一同) ありがとうございます。



京都府立東宇治高等学校 創立50周年記念事業実行委員会

委員長 橋本 博文 (学校運営協議会委員)
副委員長 野村 康隆 (校長)
池本 泰 (PTA 会長)
顧問 中村 健史 (前校長)
松本 啓二 (元校長)
中 友明 (元校長)
統括 森本 義則 (副校長)

委員

記念式典 高 繁行 (学校運営協議会委員) 谷口 博一 (教職員)
山村 恵子 (元教育後援会会長) 糸井 静代 (教職員)
田野尻 恵美 (PTA 元副会長) 大野 勝也 (教職員)
寺田 朋子 (教職員)
寺岡 剛 (教職員)
川越 俊輝 (教職員)
伊達 友洋 (教職員)
記念誌 辻田 結城彦 (同窓会副会長) 澁谷 鷹也 (教職員)
佐竹 順子 (PTA 前副会長) 小林 未来 (教職員)
吉村 亜也子 (PTA 副会長) 鳥本 純平 (教職員)
会計 谷口 雅康 (事務長)
藤村 瑞枝 (教職員)
会計監査 小倉 弘子 (同窓会会計) 田原 貴之 (教職員)
杉左近 昭太 (PTA 会計)

令和4年度

稲吉 道夫 (PTA 前会長) 二橋 香織 (教職員)
丸岡 陽子 (PTA 元会計)

表紙・裏表紙題字 鳥本 純平 (教職員)
50周年ロゴ作成 吉見 有希菜 (在校生)

京都府立東宇治高等学校 創立50周年記念誌

発行日 令和5年10月1日
発行 京都府立東宇治高等学校
〒611-0002
京都府宇治市木幡平尾43-2
TEL 0774-32-6390
編集 京都府立東宇治高等学校
創立50周年記念事業実行委員会
制作 株式会社 大光社
〒606-0864
京都府京都市左京区下鴨高木町39-1
TEL 075-707-1333

編集後記

京都府立東宇治高等学校創立50周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として「記念誌」を発行いたしました。発行にあたり、御協力いただいた皆様に感謝いたします。

編集にあたり、これまでの東宇治高校の卒業アルバムを見返し、多くの卒業生の声をお聴きしました。これまでの東宇治高校の歩みを知り、50年間の「つながり」や「想い」を実感いたしました。アルバムのページをめくり、写真を一つずつ見返すたびに、当時の校舎の面影や時代の流れに合わせた変化に心が弾みました。手にされた皆様が、この記念誌のページをめくり、楽しんでいただければ幸いです。

最後に、寄稿していただきました多くの皆様、編集にあたり多大なる御協力をいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

令和5年10月1日
創立50周年記念事業実行員会
記念誌担当 澁谷 鷹也



女、東字活

女、母校

